

山梨県の広報誌

ふれあい

特集号

秋

vol.58



巻頭

災害に強い山梨を 目指して

動画で
見てみよう

災害に強い山梨を目指して

生命、身体、財産を災害から守るためには、県民、地域、行政が一体となって、継続的に防災対策に取り組み、地域防災力の向上を図ることが重要です。そこで県では今年3月に「山梨県防災基本条例」を制定し、災害に強い山梨の実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。



強い使命感を持ち、県民を守る

山梨県消防防災航空隊は、山岳遭難をはじめ、山林火災、大規模自然災害などの厳しい現場に出動し、人命救助などさまざまな活動を行っています。また、本年7月には消防防災ヘリコプター新「あかふじ」が導入され、さらなる活躍が期待されています。そこで、今回は、任務に懸ける思いを消防防災航空隊・隊長の川田貴一さんに伺いました。

チームワークを培い、積み重ねる日々の訓練

山梨県消防防災航空隊は、平成7年に発足以来、「消防防災ヘリコプター」あかふじで、山での遭難者などを救助する山岳救助、水害時に屋根の上などに孤立した人を救出する水難救助、山林火災の消火活動、傷病者の救急搬送、災害時の孤立集落などへの物資搬送、災害状況を確認する上空偵察など多岐にわたり活動しています。

活動範囲は主に、山梨県全域と、相互応援協定を結んでいる新潟、長野、群馬、静岡、埼玉の5県です。さらに大規



山梨県消防防災航空隊隊長
川田 貴一 さん

模災害時には、これら以外の地域の応援に出動することもあり、平成27年の関東・東北豪雨の際、茨城県常総市で発生した水害では、3日間で79名を救出しました。



山岳救助を目的とした、新「あかふじ」による本番さながらの救出救助訓練（韮崎市清哲にある訓練場にて）

航空隊は、県職員である運航管理監をはじめ、県内10消防本部から派遣され救助の任務に当たる隊員8名、そのほか運航委託している株式会社ジャネットの操縦士2名、整備士3名、運航担当者1名の計15名で構成され、おのおのが強い使命感を持って職務に臨んでいます。隊員は互いに命を預け厳しい訓練を乗り越え、その中で信頼関係とチームワー

消防防災ヘリコプター新「あかふじ」への期待

クを培っています。実際の現場では何が起こるか分かりません。ですから、山岳遭難、山林火災などさまざまな災害を想定して日々訓練を重ねています。山での遭難者などの吊り上げ救助では、けがの重症度や気流の変化など、場面、時間、天候に応じた救助資器材を用いて訓練を行い、あらゆる事態に迅速に対応できる体制を整えています。

標高の高い山々に囲まれている本県では、山岳救助に関する出動が最も多くなっています。私たち航空隊は、何かあれば全力で皆さんを助けたいという気持ちを持っていますが、登山者の方々にはしっかりと健康管理を行い、装備を整え、自分の体力と技術に合ったプランで行動してほしいと思っています。大切なのは「絶対無理をしない。自分の命は自分で守る」という心構えです。

今回導入した消防防災ヘリコプター新「あかふじ」は、航続距離や、ホバリング性能、視認性などがこれまでの機種と比べ向上しているので、山岳現場での救助率の向上が期待できます。

私たち航空隊一同はこれからも、県民の安全・安心を守っていきます。

①スマートフォンまたはタブレットに「Laya」のARアプリをダウンロード（無料）②アプリを起動③下の写真にかざした後、タップすると動画が再生されます。



皆さんを空から守ります!



動画で見てみよう! 消防防災航空隊の救助訓練



消防防災ヘリコプター 新「あかふじ」導入

平成7年に運航を開始して以来、計2464回の出動（就航時間／約6585時間）により1083名を救助した旧「あかふじ」の功績を引き継ぐ、新「あかふじ」を今年導入しました。新「あかふじ」は、アメリカ製の最新型で、出力が大きく、小回りも利くことから標高の高い山岳地帯を抱える本県の地形に適しており、山岳救助や山林火災の消火活動



新「あかふじ」の操縦室は、最新のデジタルパネルが整備されているほか、旧「あかふじ」に比べ窓が大きくなっているので視認性も向上



「これからも県民の皆さんの安全・安心の確保に、より一層努めてください」と機長と握手する後藤知事

新「あかふじ」を間近で見よう!

11月10日(土)・11日(日)に小瀬スポーツ公園で開催する県民の日記念行事に新「あかふじ」を展示。会場では救助訓練の見学、コックピット搭乗体験や記念撮影もできます。
※期間中「あかふじ」に救助出動が要請された場合は、中止となりますのでご了承ください。

においても迅速な対応が可能となります。旧「あかふじ」と比べると、最大巡航速度は32^{キロ}向上して時速287^{キロ}となりました。また、燃費も向上し、航続距離は134^{キロ}伸び734^{キロ}となり、さらにホバリング性能も向上しました。機体デザインは、消防のイメージカラーである赤に澄み渡る青空や山梨の名水を連想させる青を使用し、機体中央には富士山が描かれています。名称と機体デザインは、初代と同様の活躍を期待し、新型機に引き継がれています。



県民一人ひとりが防災意識を 高めるために

「山梨県防災基本条例」では、県、市町村などが行う「公助」に加え、県民が自らの安全を自ら守る「自助」、地域住民などが互いに協力しつつ自らの地域を守る「共助」が一体となり、防災意識を共有し、相互に連携して、継続的に防災対策に取り組むことにより、災害時における被害の軽減を図ることを目的としています。

災害に強い山梨を目指し「防災基本条例」を制定

日本を代表する山々に囲まれている山梨は、長きにわたり大規模な災害を経験していません。しかし、南海トラフ地震をはじめとした大規模地震や富士山噴火などの大規模災害の発生が懸念されることから、県全体で防災対策に取り組む必要があります。そこで、今回制定した防災基本条例では、防災に関する基本理念を定め、県民や事業者、学校の設置者などの役割や県の責務を明確にし、それぞれが協力して防災対策に取り組む、災害に強い山梨の実現を目指していきます。



防災危機管理課 深沢 健 主事

また、県では、地域防災力の向上と地域コミュニティの活性化を目指し、地域の方々による「地区防災計画」の策定を支援しています。さらに、災害への備えや災害時取るべき行動などについて、小学生から大人までそれぞれにに応じて分かりやすく作成した「やまなし防災力向上テキスト」を配布します。



自助・共助の大切さ

災害が発生した時、「自助」と「共助」は非常に重要です。過去の大規模な災害において、公的機関による援助に至るまでにはかなりの時間がかかり、被災者たちは、各家庭にある備蓄品で生活したり、地域で協力し合い被害を最小限に抑える行動を取ったりした事例が数多く見受けられました。こうしたことから、日ごろから災害に対する備えや、災害時の行動について家族や地域で話し合ったり、ハザードマップや避難場所、避難経路を事前に確認することが非常に重要です。

県では、県政出張講座や県防災安全センターにおける体験講座などを通じ、防災知識の普及啓発を行っています。また、災害時に、地域で中心的な役割を担う地域防災リーダーや防災士の育成も行っています。

防災は、受け身にならず自ら情報を入手することも大切です。日ごろから県や各市町村のホームページで防災に関する情報を得る習慣を身に付けたり、地域の自主防災組織の活動や防災訓練に積極的に参加したりするなど、防災知識や技能の習得に努めてほしいです。

自助

自らの安全を自ら守るために自発的に行う防災活動
例:建物の倒壊防止、物資の備蓄、防災知識の習得

災害に強い山梨を目指して

公助

県、市町村および防災関係機関が実施する施策
例:防災教育の実施、防災情報の提供、行政機関等の広域的な連携

共助

地域において相互に助け合い、地域の安全を確保するために行う防災活動
例:近隣住民と協力した負傷者の救助、避難所運営

「防災シンポジウム」開催

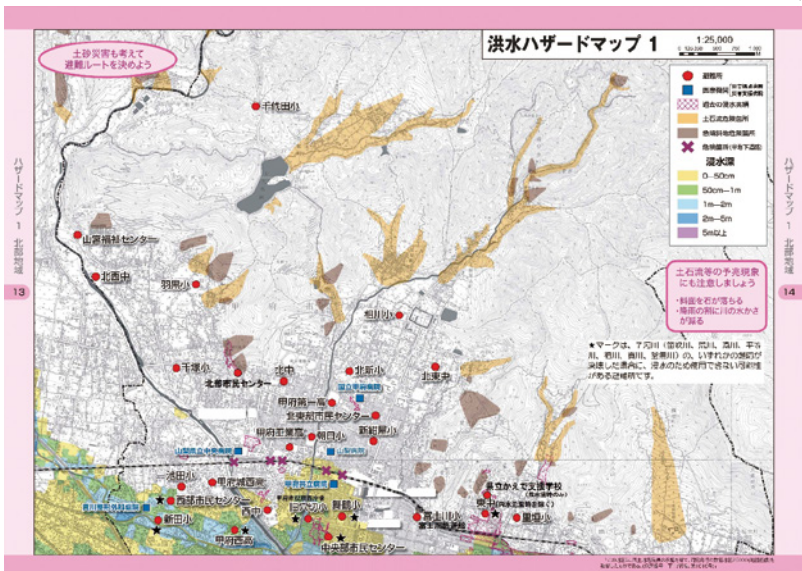
- 日時: 11月9日(金) 午後1時30分~4時30分
- 場所: 山梨市民会館(山梨市万力1830)
- 内容: ◆防災講演
「自助」「共助」の取り組み・課題を実災害の事例を参考に講演
講師 片田 敏孝氏(東京大学大学院特任教授)
片田氏は、岩手県釜石市において、平成16年から津波防災教育に取り組み、東日本大震災の発生時、市内の小中学生ほぼ全員が津波から避難できた「釜石の奇跡」に貢献。
- ◆事例発表
- ◆パネルディスカッション
- 参加料: 無料(事前申し込み不要)
- 問い合わせ先: 防災危機管理課
TEL 055-223-1432 FAX 055-223-1429

ハザードマップを知ろう!

ハザードマップとは、自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所、防災関係施設などを表示した地図です。

普段からハザードマップを確認し、安全に避難行動ができるよう災害に応じた避難場所、避難ルートを決めておきましょう。

ご自身のお住まいの地域のハザードマップを調べてみましょう [わがまちハザードマップ](#)



甲府市の洪水ハザードマップ(平成28年2月現在)

やまなし防災力向上テキスト

県内の小学生向けに作成した「やまなし防災力向上テキスト」では、災害について分かりやすく解説しています。





「自助努力」 実践的な防災教育の重要性

防災研究に取り組み山梨大学地域防災・マネジメント研究センターで、子どもに対する防災教育について研究や普及啓発活動を行っている秦^{ただやすのり}康範准教授に実践的な防災訓練の重要性などについてお話を伺いました。

「自助」を教えることが防災教育の基本

防災教育の基本は、「自助」・「共助」ですが、まず自分の命は自分で守る「自助」が基本です。自分が助からなければ人を助けることができませんから、「共助」は、「自助」というベースの上に成り立っているのです。これまでの防災教育は、「知識」と「心のケア」の2本立てによるものでしたが、東日本大震災では多くの犠牲者が出てしまいました。それは津波が危険という知識は誰もが持っていたものの、逃げるという基本ができていなかったからです。その原因は、自分の命は自分で守るという当たり前のことを普段から教えてこなかったことにあります。現在、各学校での避難訓練は事前決められた日の決められた時間に行われることがほとんどです。しかも先生が教室にいる授業中に行われ、「地震が発生したら机の下



山梨大学地域防災・マネジメント研究センター
准教授 秦 康範 さん

に潜りましょう」と教えています。あの学校で休み時間に避難訓練を実施したところ、子どもたちはわざわざ自分の教室に戻って机の下に潜ったのです。これは何のために避難訓練を行うのかを教えられずに、マニュアルに沿って行動だけを教えられた結果です。学校での避難訓練は、休み時間など教師が近くにいない時に抜き打ちで行い、子どもたち自身が判断して適切に身を守る行動が取れるようになることが大切なのです。

県内の初任者教師に向けた 防災教育研修会

秦准教授を講師に迎え、県内の小・中・高・特初任教諭、新規採用養護教諭、新規採用栄養教諭を対象にした「防災教育研修会」を総合教育センターで開催しました。講義では過去の災害事例を振り返ったり、学校現場で行われている避難訓練の問題点を秦准教授が指摘したりした後、グループワークで課題とその解決策について話し合い、各グループの発表も行われました。その中で、「訓練はできるだけ実際に起こり得る状況を想定し、訓練だからこそ、教師も本気で取り組まなければいけない」といった声も聞かれ、参加者は真剣な表情で防災教育の重要性を学びました。



笛吹市立境川小学校 谷口 檜教諭

防災訓練は本当に大切なものだと感じました。子どもたちには、身を守る大切さを教えていきたいと思っています。また、実際に起こった災害の映像を見たり、体験者の話を聞いたりすることも防災教育には、必要だと感じました。



南部町立富河小学校 小河内 雅子教諭

いざという時に、どういった行動を取ればいいのか、できるだけ子どもたちに考えさせて、子どもたちが自分の身を自分で守れるように、避難訓練に取り組んでいこうと思います。





「共助努力」 被災地から学ぶ日ごろの連携

被災地に赴き災害ボランティア活動をする一方、活動の中で得た経験を通して、被害を最小限に抑えるための防災ボランティア活動も行う「災害・防災ボランティア未来会」の山下博史代表に、災害に備えた地域防災のあり方や共助の大切さについて伺いました。

普段のつながりが「共助」の体制を強くする

災害が発生した時、どのような行動を取るべきか判断するためには、住民一人ひとりが日ごろから意識を高めておくことが必要です。具体的には災害を甘く見ず、地域の災害の特性と対処法を正しく学ぶことです。そして「地震の時は」、「水害の時は」と、それぞれの場面で取るべき行動を事前に訓練しておくことです。例えば、地震の避難訓練の際に、ブロック塀がある道を通っていませんか？水害の避難訓練のとき、



NPO法人 災害・防災ボランティア未来会
代表 山下 博史 さん

地区住民に向けた 防災講座

川の近くを通っていませんか？災害の種類ごとに安全な避難経路をしっかりと住民が把握しなければ意味がありません。さらに大切なことは、地域や職場、学校などにおける「つながり」を持つことです。地震が発生した瞬間に隣隣の家に声を掛けるなど「共助」は非常に大切です。共助とは普段からの隣り近所の付き合いの延長です。私は共助のことを「協助」とも言っています。小さな力を足して大きな力になると協力になります。共助とはお互いが協力して助け合うことも言えます。その共助の体制を強くすることが、災害に強い地域づくりだと考えています。

地区防災計画策定のモデル地区の一つである富士川町鵜沢上北町で、山下

さんを講師に迎えて「地区防災計画作成・実践支援事業に係る防災講座」が開催されました。第1回目となる今回の講座では、大規模災害の発生時から復旧の過程などの映像を見ながら、もし自分たちの地域でこのような災害が起きた場合はどうなるのか、参加者一人ひとりが想像し、そのための備えについて考え、防災への意識を高めていきました。防災は画一的でなく、人そ



それぞれの置かれた状況に合わせて行うことが必要であり、備えていれば助かる命があることや、高齢者の人生の知恵も共助に生かすことができるという話がありました。



富士川町鵜沢上北町自主防災会
防災長 中澤 良夫さん 防災次長 深沢 一司さん

住民が地域のことを熟知しているのが私たちの強みです。災害時に安否を知らせる黄色い旗を各世帯に配布し、無事であればこの旗を玄関先に出すことにより、班ごとの避難経路を作り、掲示するなど日ごろから備えています。講座でも取り上げられましたが、地域防災で一番大事なことは人のつながりだと思います。



「育水」から始まる「水」のブランド化



八ヶ岳南麓にある川俣川渓谷の吐竜の滝(北杜市大泉町)

山梨は、富士山や南アルプス、八ヶ岳などの名峰に囲まれ、森林が県土の約8割を占める自然豊かな県です。そうした自然が育む山梨の「水」は、生産量日本一のミネラルウォーターや、果物、日本酒、養殖魚などの県産品、湖や渓谷などの景勝地を創り出しています。県では豊かで良質な水を将来にわたって守り、その名水をブランドとして発信していく、さまざまな取り組みを行っています。



9月19日を「育水の日」と制定

山梨が誇る豊かな名水は、雪解け水や雨水が標高2000〜3000級の山々に染み込み、長い年月をかけて伏流水(地下水)となり、私たちの生活を潤してくれています。県ではこ

うした豊かで良質な水を地域資源と位置付け、平成28年3月に「やまなし『水』ブランド戦略」を策定し、水を生かした本県のイメージアップ、地域・産業の活性化を図ることにしました。

この水ブランド戦略は、健全な水循環を守り育てる『育水』という考え方に基づき、水を育む森林の整備・保全を通じ豊かな水对未来につなげる「育水の推進」と、水の魅力や水に関連した県産品や観光などの情報を国内外に伝えていく「育水の発信」の2本柱で策

定しています。また、この取り組みは行政だけでなく、県民や企業などに関わりながら行われていることが評価され、平成29年度全国知事会の「先進政策バンク」の優秀政策に選ばれました。

県では、今年度、9月19日を『育水の日』と定め、育水の日前後には「やまなし育水推進県民大会」をはじめ、水関連企業と連携した各種イベントも展開しています。育水の日制定を機に、今後も「天に選ばれし、名水の地。山梨。」にふさわしい、育水の取り組みを推進し、水ブランド力の向上を図っていきます。

9月19日は
育水の日



「天に選ばれし、名水の地。山梨。」と誇れる、そのわけ

育水に関わる研究の情報共有や連携、長期的視点に立った水資源の保全と有効活用などについて検討する「やまなし育水研究会議」の委員である、山梨県富士山科学研究所・研究管理幹の内山高さんに山梨の水の魅力についてお話を伺いました。

さまざまな特徴を有する山梨の水

山梨の水が名水と言われるわけは、まず豊かな自然環境が残されていて、植林された森には人の手が入り適切に整備されるなど、水源の森がしっかりと守られていることが挙げられます。さらに山梨にはさまざまな種類の岩石があり、その岩石に水が染み込み、時を経て湧き出てくることで、それぞれ異なる特徴を持つ水が生まれていることです。岩石の種類は大きく分けると三つです。一つ目は甲斐駒ヶ岳や昇仙峡などの花こう岩、二つ目は富士山、八ヶ岳、茅ヶ岳などの火山に由来する岩石、三つ目は南アルプスなどの堆積岩です。花こう岩にはミネラルが多く、堆積岩には温泉の成分が入っています。一方、同じ火山であっても八ヶ岳の水は安山岩という溶岩層を通るため適度なミネラル分を含み、富士山は玄武岩という溶岩層を通ることから



山梨県富士山科学研究所 研究管理幹 内山 高

バナジウムを豊富に含みます。このように多様な特徴を持った水があることは全国でもまれなことで、山梨が名水の地として、誇れる理由です。

清らかなで豊富な水をたたえる天然の水がめ

山梨は晴天率が高く、雨はそれほど多くありませんが、周囲を山に囲まれ森林面積が広いいため、山に降る雨や雪が十分に蓄えられているのです。さらに水田があることで地下水が保たれ、水がうまく循環しているのです。山梨がミネラルウォーター生産量日本一であるのは、量の豊富さと採水

山梨県の「名水百選」と「平成の名水百選」

県内の7カ所が名水の産地として選出されている。この数は、全国で3番目に多い。

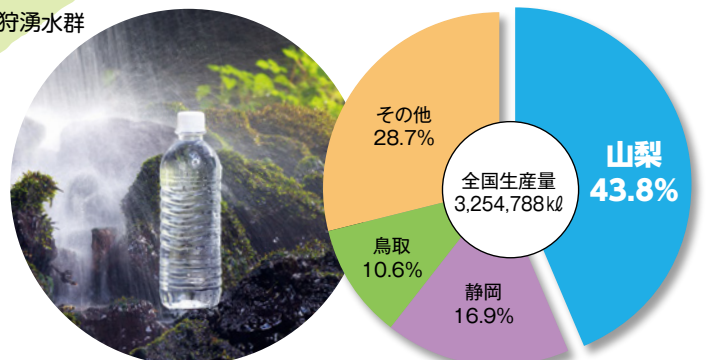
※名水百選とは…環境省が全国にある清澄な水について、その環境保全の推進などを目的に選定



※選定された名水は、飲用に適することを保証するものではありません。

しやすい立地条件や大消費地である東京などへの輸送の利便性、さらに自然公園が多く採水地より上に位置する地域の開発が制限されることなどから環境が守られ、きれいな水が採れることが大きな理由です。私たち県民は普段からこの名水をさまざまな場面で活用しています。自分の周りにはある水の魅力を再認識していくことで、山梨の素晴らしい水がこれからも育まれていくことにつながっていくと思います。

ミネラルウォーター生産量 (平成29年)



出典：一般社団法人 日本ミネラルウォーター協会



県民、行政、企業の連携による「水」ブランドの確立

豊かできれいな山梨の水を生かして、本県のイメージアップをはじめ、地域経済の活性化や地域産業の振興を図るため、県民、行政、企業が連携し、「育水」という考え方を基本として、「水」ブランドの向上を目指しています。

「水」のブランド化から広がる可能性

今年度より「天」に選ばれし、名水の地。山梨。「プロジェクト」事業を開始しました。県の取り組みに賛同していただいた企業と連携し、民間資金を活用して水ブランド発信事業を展開するなど、事業を通して山梨県全体で「水は山梨の強み」であるとの意識を高め、水のブランド化につなげることを目的としています。今年度定めた「育水の日」もその一環で、育水を広く浸透させるため「水」をテーマとした



森林環境総務課 原川 理 主査

イベントを企業と一緒に開催しています。また、昨年度には、水の恵みを動画でPRする取り組みも実施し、国内外に広く発信しているところ。さらに学生など一般の方々の柔軟な視点から、新しい水の魅力に光を当てた研究を募集する「やまなし」水ラボプロジェクトも今年で2年目を迎え、若い世代の皆さんの水への関心も深まってきています。

今、山梨では水ブランド確立に向けて地域の自治体と企業の連携が生まれてきているので、この機運を県としてもサポートし、さらに盛り上げていきたいと考えています。県民の皆さんも武田信玄や果物などと並ぶ山梨のスターの一つに「水」があることを自慢してほしいと思います。

「水」ラボプロジェクト

県では県内の高校、大学、NPOなどが行う山梨の水に関する多様な研究に助成し、その成果を育水、水の価値や魅力の発見につなげるための取り組み「やまなし」水ラボプロジェクトを実施しています。今年度採択された7団体の中から、山梨英和高校と未来計画研究社（山梨大学地域未来創造センター内）の研究内容を紹介します。

清涼な水環境を好むミズダニ類の県内分布状況を研究 — 山梨英和高校 —

スーパースイセンスハイスクール

(SSH)に指定されている山梨英和高校は、さまざまな課題研究に取り組む中で、これまでも指標動物としてササラダニ類を用いて県内の土壌の環境調査を継続的に行ってきました。そのような中、生物が好きな一人の生



ミズダニの種類の一つ ヒラタダニ

徒がダニは水の中にもいて、色もきれいで「水の中の宝石」ともいわれていることに興味を持ったことから今回の研究が始まり、現在2年生4名で活動しています。人間に害を及ぼすことのないミズダニは、河川や地下水、湖沼、海などのきれいな水域に生息するため、どれくらい、どのような種類がいるかを観察・調査することで、ミズダニが水質の新たな指標動物に成り得ると考え、県内の河川での採取に取り組んでいます。

これまで県内35カ所で採水を実施し、15属105頭の採取に成功。今後は調査数を増やし、さらに精度を上げ、県内の大学などとの連携を図りながら研究を深め、県民の皆さんに水環境に興味をもってもらい、水ブランドの新しい可能性を広めていくことを目指していきます。



「水ラボプロジェクトの助成を受けたことで、活動の幅がさらに広がり、山梨の水に関わる環境保全にもつながる発見が期待できます。そして、きれいな水にすむミズダニのかわいさもPRしていきたい」と話す、生徒たちと顧問の山本純治教諭

富士山の天然水をブランド化して 公民連携により地域振興を図る

私は、富士山の水が世界一きれいで、おいしくて、豊富であることに誇りを持っています。そこで、地域の宝であるこの名水を守り続けるために、富士吉田市を拠点とするミネラルウォーター製造会社6社で平成28年5月、「富士吉田ミネラルウォーター保全協会」を設立しました。また、最近では、企業と行政が一体となり育水を進め、産業としても発展させなければといった動きも出てきま



採水地の環境が守られている富士北麓

した。そこで、ミネラルウォーター製造会社だけでなく、農業や織物など水を利用している他の産業と共に富士吉田市と連携し今年6月、「富士山の天然水の聖地富士吉田公民連携協議会」を設立しました。協議会では、富士山の天然水のブランド力を強化し、関連企業の国内外の販売拡大を図ること、また収益の一部を地域課題の解決に活用し富士山を愛する多くの人々と共に、自然環境や景観を保全する活動を行っていきます。地域の発展の源は、きれいな水、きれいな空気、つまり富士山から享受している自然の恵みです。この地域の魅力を全ての業界が一致団結して広めていきたいと思っています。



富士山の天然水の聖地富士吉田公民連携協議会
理事長 粟井 英朗さん
富士山の銘水(株)代表取締役社長

湧水によって生じるコーヒーの味の違いを研究

— 未来計画研究社(山梨大学地域未来創造センター内) —

山梨大学地域未来創造センターの杉山歩特任准教授(山梨県立大学国際政策学部講師)と共に、4年ほど前から地域のお祭りでカフェを出店している学生たちは、早川、南アルプス、八ヶ岳などの湧水を使ってコーヒーを入れることを思い立ち、コーヒー豆と県内各地の湧水の相性を自分たちなりに調べ始めました。山梨にはさまざまな特徴を持つ水があることを知った学生たちは、アンケートや味覚センサーによる定量評価など、さまざまな調査を行いました。中でもコーヒー、緑茶それぞれの専門家へのインタビュー調査から、湧水によって生じる味の違いについて興味深い結果が得られ、ブランド化に向けた方向性を見つけました。昨年度の研究では単一の



山梨の湧水と嗜好飲料の魅力进行分析、専門家へのインタビューも掲載した冊子「OASIS」も学生たちが作成



「嗜好飲料を通して水のブランド化につなげたい」と意欲あふれる学生たちと杉山特任准教授(左)

コーヒー豆だったので、今年度は複数の産地や焙煎度合による相性を分析することで、特徴を明確化にして、それぞれの湧水のブランド化につなげることを目標にしています。

さらにおいしい水とコーヒーの相性を追求して、山梨に新しいカフェ文化を広めていくことも目標の一つ。今後は食品も研究対象に加え、さらなる山梨の水のブランド力強化を目指していきます。

リニアで変わる やまなしの姿



あらすじ

時は、リニア中央新幹線が開業してから10年後の2037年。15年ぶりにアメリカから山梨に戻ってきたヒロシ(ど根性ガエルの主人公)とその息子のヒカル。2人の目を通してリニアで変わる、やまなしの姿を描いていく。

前号(第3回)では、リニアの車内で出会ったフランス人のエルザと、海外から訪れる旅行客の日本での過ごし方などについて話した。

漫画「リニアで変わるやまなしの姿」登場キャラクター



ピョン吉
ヒロシが開発した万能人工知能ツール



ヒロシ
発明家



ヒカル
ヒロシの息子で小学生



吉野さん一家
ヒロシの家のお隣さん



京子
旅館の女将



キョウカ
京子の娘



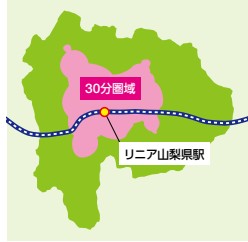
エルザ
観光で山梨にきたフランス人

作:吉沢やすみ 作画:石川森彦



リニア駅への移動時間

- リニア駅までの移動時間も短くすることで、より多くの人々がリニアのメリットを受けることができるんだ。
- だから、リニアの開業とあわせて、道路の整備などを行って、リニア駅まで30分で行くことができるエリアが広がっていったんだ。
- 今では8割近くの人々が30分で駅に行くことができるんだ。



自動運転

- 2025年頃には、ブレーキからハンドル操作まで、全て自動で行うことが可能な車が登場しているんだ。
- 自動運転があるから、子どもも高齢者も、安全に自由に移動できるようになったんだ。



山梨への移住

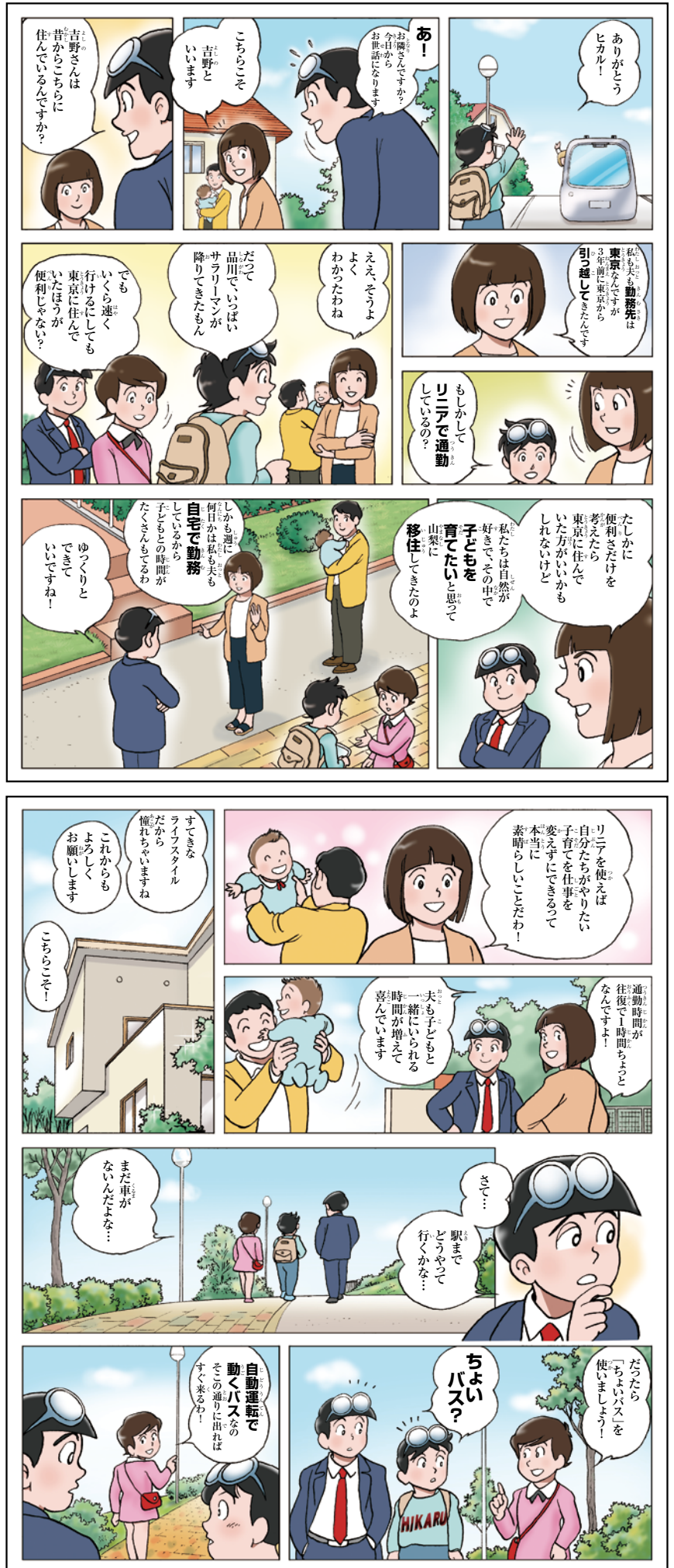
- 大都市との移動時間が短くなったから、山梨県に移住して、リニアで通勤や通学をする人や、週末を山梨で過ごす人が増えているよ。
- 大都市と山梨の間を気軽に行き来できるから両方の良いところを楽しむことができるんだ。

会社に出勤しない働き方

- 技術が発達して、ネットがあれば、どこでも仕事ができるようになったんだ。
- 会社に行かずに、自分の家で働く在宅勤務もその一つだね。
- 子育てや介護をしながら働けるし、落ち着いた環境で仕事ができるんだ。

豆知識で学んだことで クイズに挑戦してみよう!

QRコードを読み込んで、
ピョン吉AIのサイトに
アクセスしよう!



つづきは、「ふれあい vol.59」(平成31年1月1日発行)に掲載します。



やまなし サイエンスラボ

山梨の産業の活性化や県民生活の
向上を目指す試験研究機関の紹介

vol. 6 果樹試験場



シャインマスカットの生産拡大に 向けた栽培技術の開発

果樹試験場では、近年、おいしさと食べやすさで消費者に人気が高く、生産量が急増しているブドウ「シャインマスカット」の房づくりと摘粒の作業時間の削減を目指した、省力栽培技術の開発を行っています。

果樹王国を支える 研究開発と支援活動

果樹試験場は、昭和13年に東山梨郡上万力村・平等村(現・山梨市)に県立農事試験場園芸分場として開設されました。以来、山梨の果樹生産技術の向上やオリジナル品種の育成、また情報発信拠点としての役割を担ってきました。現在は品種育成に関する研究を行う育種部、高品質安定生産技術の開発に取り組む栽培部、病虫害防除技術や施肥^{せひ}および果実の貯蔵技術の改善などに取り組む環境部が、果樹王国やまなしのさらなる発展のために、それぞれの専門分野で研究開発を行う一方、生産者との連携を図りながら技術の普及活動も行っています。

シャインマスカットの 栽培面積拡大に向けて

全国的にも人気が高く、近年は海外でも注目を集めている「シャインマスカット」は、病害に対する抵抗性が高く栽培しやすいことから、県内においても現在、出荷量が「巨峰」に次いで2位となっています。果樹試験場としても、これまで行ってきた高品質安定生産に向けた研究開発に加え、栽培面積の拡大に対応できる作業効率の向上を目指し、省力化も視野に入れた栽培管理方法の確立に取り組んでいます。

ブドウ栽培に関わる主な作業は6月の1カ月間に集中し、中でも房づくり(花穂^{かすい}の整形作業)と、摘粒(粒の間



果樹試験場 栽培部
生食ブドウ栽培科
里吉 友貴 研究員



省力化実現で
シャインマスカット
への期待がより一層
高まっています

ブドウ栽培農家
坂本 浩二 さん

シャインマスカット栽培を始めて10年になりますが、果樹試験場にはいつも技術的なことを相談させてもらっています。省力化の技術は昨年から導入していて、作業を手伝ってくれる方からも「すごく楽でいい」と言ってもらっています。生産者にとって省力化が進むのはとても画期的なことです。品質についても従来の栽培法と変わらない高品質なものできています。これからも山梨のシャインマスカットが一番おいしいといわれるように、より一層技術を高めていきたいです。



「坂本さんは栽培技術が高い生産者さんなので、試験場にとっても頼れる存在です」「省力化は重要な課題ですから、試験場で技術開発をしてもらえるのは、ありがたいです」とお互い信頼関係を築いている

果樹試験場



【問い合わせ先】

住所:山梨市江草原1204

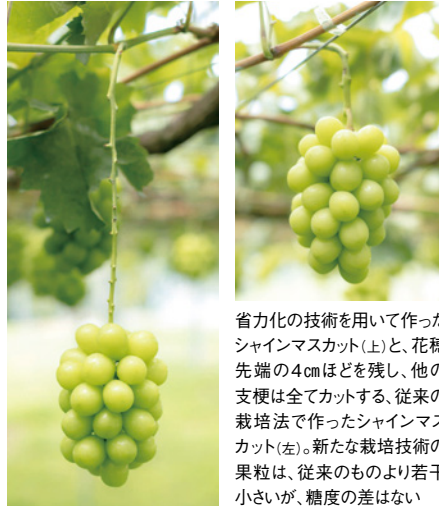
TEL:0553-22-1921 FAX:0553-23-3814

山梨 果樹試験場

検索



①
主軸から分かれた上部の支梗を利用した房づくり。ブドウの蕾が付いている支梗が2本あるが、果形の良い方を残す



省力化の技術を用いて作ったシャインマスカット(上)と、花穂先端の4cmほどを残し、他の支梗は全てカットする、従来の栽培法で作ったシャインマスカット(左)。新たな栽培技術の果粒は、従来のものより若干小さいが、糖度の差はない



引き作業)に多くの時間がかかるため、これらの作業時間の削減を検討しました。研究の結果、主軸から分かれた上部の支梗(写真①)を利用することにより、房づくりに欠かせない花穂(開花前のブドウの房)にはさみを入れる回数や摘粒の手間を少なくできるなど、これまでの作業時間を約6割削減する成果が得られました。また、さらに省力化を図りたい場合は、展葉(新芽が開き葉になること)5枚時にジベレリン処理を組み合わせると、花穂が伸長し摘粒の作業時間を大幅に短縮できるという結果も出ました。

現在は、関係機関と連携し、生産現場での技術の適応性を検討しています。

現在、シャインマスカットの生産量は全国的に急増しています。産地間競争に打ち勝つためにも引き続き高品質な果実生産や省力化技術など、生産現場に即した研究を行うとともに、2020年東京オリンピックを好機として海外に山梨産シャインマスカットをアピールしていきたいと思っています。

生産量増加で山梨の農業のさらなる発展を





[シュン!]

瞬

やまなしの

vol.
18

女性ならではの心配りで
地域の安全・安心を守りたい

甲府地区消防本部
消防士長

長田 篤美さん



「マンションや商業施設などの大型物件やガソリンスタンドなどの危険物施設が、消防法に適合しているか確認するのも予防課の大切な仕事です。また、新築・改築工事の事前相談、書類審査、立ち入り検査などにも、常に丁寧な対応を心掛けています」

甲府地区消防本部 予防課

甲府市伊勢3-8-23 TEL 055-222-1291



「甲府地区消防本部の管轄は、甲府市、甲斐市(旧双葉町を除く)、中央市、昭和町と広範囲にわたります」と説明する篤美さん



甲府地区消防本部2階にある予防課では、住宅用火災警報器に関する相談も受けている



「困っている人を助けたい」 熱い思いで志した消防吏員

甲府地区消防本部に勤務する女性消防吏員・長田篤美さん。「学生時代に困っている人を助ける仕事に就きたいという気持ちが強かったことが、消防吏員を志すきっかけになったんです」とにこやかに話します。小柄できゃしゃな印象の篤美さんですが、消防学校での訓練を経て最初に配属されたのは中央署警防係。男性消防吏員と同じく24時間体制で、火災現場での消火活動や傷病者の搬送に当たったといいます。

「消防吏員は性別に関係なく業務に就くのですが、体力の差だけではどうにもなりません。迷惑を掛けていると感じて悩むこともありました。が、傷病者が女性の場合には、女性消防吏員の必要性を感じています」と篤美さん。また、業務に従事する中で強く思ったのが、過酷な状況下で人を助けるためには、自分が倒れてはいけないということ。体調管理はもちろん、体力トレーニングも積極的に言い、出勤に備えていたといいます。

女性ならではの心配りで 安全・安心な地域を目指す

現在、火災予防に関する業務を行う

予防課に所属している篤美さん。特に力を入れているのが、住宅用火災警報器の設置促進です。「消防法の改正により、平成18年6月から火災警報器の設置が義務付けられました。義務化以降に新築された住宅には設置されているのですが、既存住宅では未設置の場合も多いので、戸別に訪問し、設置を呼び掛けています。お年寄りにはできるだけ優しい口調でゆっくり分かりやすく話すなど、女性ならではの細やかな説明も心掛けるようにしています。また、訪問先で『鍋に火をつけたままにしてしまい、火災警報器に助けられたよ。火事にならなくて本当に良かった』といった話を聞くこともあります。こうした会話から、火災予防の大切さを改めて実感し、仕事にやりがいを感じています」と話します。

「山梨県内で活躍する女性消防吏員は現在14名です。職場には、女性専用の仮眠室やシャワールームの整備、マタニティー執務服の導入など、女性が働きやすい環境が整ってきています。これからも火災を減らし、安全・安心な地域づくりに貢献し、後に続く女性消防吏員の手本になれるよう頑張ります」と力強く語ってくれました。

先見の明で富士北麓の観光開発を促した実業家

小野金六

1852-
1923



(山梨県立博物館提供)

生来の洞察力と商才で文明開化の風に乗り
多角的に事業を興し、業績を残した小野金六。
富士身延鉄道の開通に尽力し
富士北麓の開発構想をいち早く訴えて
山梨の観光開発に大きな足跡を残した。



金六にゆかりある身延山と富士山を印象的に描いた「富士身延鉄道沿線図会(部分)」(吉田初三郎画 山梨県立博物館蔵)

韮崎の豪商に生まれ 生来の商才で家業にまい進

小野金六は、1852(嘉永5)年、巨摩郡河原部村(現・韮崎市)で造り酒屋と呉服屋を営む豪商「富屋」の当主・小野弥左衛門富郷の次男として生まれた。幼少の頃より聡明だった金六は、寺子屋に通う傍ら漢学を学び、甲府へ出て儒学も学んだ。その後、実家に戻り、家業を手伝うようになった。15歳になった金六は、両親や兄を説得し、文化華やかな江戸へ行く夢を実現した。想像以上の素晴らしさに目を見張る一方、自身が大成するには、江戸の人々以上に忙しく立ち回り、広い視野で物事を見ていくよりほかにと決意した。

実家に戻った金六は、一層家業に励む傍ら、国内の情報を集めて商売に活用するようになった。そのような中、行商先の信州で養蚕が成功していると知れば、開墾した地に取り寄せた桑の苗を移植したり、周囲の農家に桑の苗や蚕種を提供したりして養蚕業を広めた。また、明治の初めに県内一円が塩飢饉に陥ったときは、県に直談判して塩の確保を要請。兵庫県の赤穂へ塩の買付けに向かう役人に同行し、大量の塩を仕入れて塩不足を解消した。こうした

功績が認められ、ほどなく甲府県酒造組合取締役に就任。後に甲州財閥の総帥となる実業家若尾逸平から婚養子に迎えたいとの申し出もあったが、上京の夢があつたため断つた。

20歳で上京。数々の事業を興し 実業家の仲間入りを果たす

1873(明治6)年、大志を抱いて上京した金六は、為替方で貿易商の小野組に職を得て、商才を発揮した。1877(明治10)年、東京・深川の廻米問屋で米倉庫の主任を務めていた金六は、西南戦争で米の価格が高騰すると予測し数千石の米を買い占めた。金六の読みは見事に当たり、米相場は暴騰。巨額の利益を得た。金六の商才は瞬く間に広がり、実業家の仲間入りをした。1882(明治15)年には、東京機械製造を創立し取締役に就任。その後、製油業に先鞭をつけ数々の鉄道事業を立ち上げたほか、東京割引銀行、富士製紙などを創立していった。さらに、1896(明治29)年には、若尾逸平や根津嘉一郎と東京電灯の株式を買占め、水力発電による電力供給の安定を図るなど、時代が要請する事業を次々と多角的に興しては、要職に就いて経営した。

富士身延鉄道の敷設と 富士北麓開発に情熱を注ぐ

明治の中頃から構想が始まった東海道線と中央線を結ぶ鉄道については、渋沢栄一、根津嘉一郎ら財界の名士の賛同



身延線創設50周年記念塔と創設時の功労者6名の胸像ブロンズ(身延町・丸山公園)



小野金六の胸像ブロンズ

を募り、自ら敷設委員長に就任して計画を推進。1912(明治45)年に富士身延鉄道(現在のJR身延線)を創立して社長に就くと、難工事や第1次世界大戦による物価高騰などの苦難を乗り越え、ついに1920(大正9)年、富士から身延間の開通に成功した。また、金六は、県の政財界で活躍する名士を一堂に集め、富士北麓を世界的大公園にする構想について演説した。その中では、外国人観光客が富士山麓に興味と憧れを抱いていること、こうした人たちの受け入れ体制を整えば年間2万5千人の観光客が見込めることを主張し、県の協力援助を要請した。残念ながら金六は、身延線全線開通や富士北麓の開発を待たず、1923(大正12)年に71歳の生涯を終えたが、その遺志は富士急行創設者の堀内良平に受け継がれた。



山梨近代人物館

山梨県庁舎別館2階(甲府市丸の内1-6-1)

第8回展示

「甲州財閥～近代日本を駆け抜けた山梨の人々～」
期間：10月1日～平成31年3月27日

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：第2・4火曜日/12月29日～1月3日

入館料：無料

TEL 055-231-0988 FAX 055-231-0991

〈記事監修〉山梨大学 名誉教授

齋藤康彦

知事を先頭に国内外で山梨の魅力PR



梨が誇る高品質な農産物や、観光、産業などをPRするため、後藤知事自ら国内外に足を運び、トップセールスを行っています。

7月中旬には、インドネシアを訪問。同国への県産果実の輸出拡大を図るため、現地の輸入業者や小売業者、消費者に品質の高さをアピールしたほか、さらなる観光客誘致に向け、現地メディアや観光業者らに山梨の魅力を紹介しました。



フィリピンのパンパンガ州関係者に、山梨の魅力をPR

8月下旬には、ベトナムとフィリピンを

相次いで訪問。初めてのトップセールス実施となるフィリピンでは、マニラの旅行業者に山梨の魅力を説明を行ったほか、パンパンガ州を訪問し、今後の友好関係の構築に向けた意見交換を行いました。また、県内の企業と連携して桑の葉茶の製造・販売に取り組んでいるパンパンガ国立農業大学では、名誉博士号を授与されるとともに、記念植樹を行い、交流を深めました。

一方、国内においては、東京都内の駅ビル内にある青果店で、人気の高いブドウ「シャインマスカット」などを大勢の消費者にPRしました。



都内でシャインマスカットの試食会などを行い、品質の高さをPR

日本ワインコンクールで 県産ワイン11点が金賞に輝く

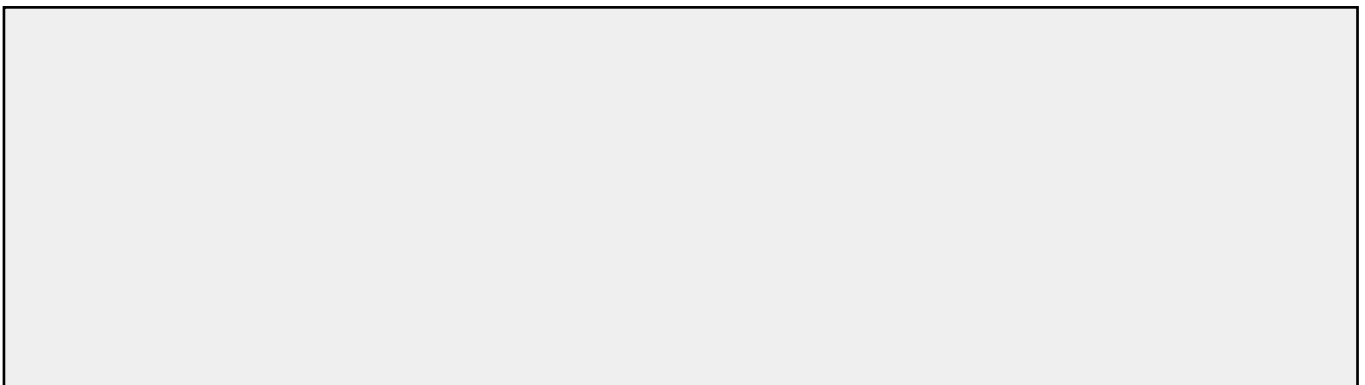


産ブドウのみを原料とするワインを対象とした「日本ワインコンクール2018」が甲府市内で開催されました。16回目となる今回のコンクールには、全国のワイナリーから787点のワインが出品され、金賞に選ばれた22点のうち、半数の11点を山梨県内で醸造されたワインが占めました。日本ワインの品質は近年大きく向上し、国内外における人気も高まりを見せています。今後、このコンクールを通じて、日本ワインの魅力を発信していきます。



金賞を受賞した県産ワイン11点。うち3点は部門最高賞を受賞

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



**「やまなしで働く魅力」
若者座談会第1回を開催****県**

では、若年世代の定住促進に向け、高校生や大学生が本県で働く魅力を考える機会となるよう、座談会を開催しています。第1回目は、県立農林高校で開催。市川三郷町に移住し、有機農法で野菜を栽培している、ねづ農場の根津弘毅さん・美奈子さん夫妻が、山梨の豊かな自然環境の中で働く魅力や就農支援制度の充実などについて語った後、高校生と意見を交わしました。今後も、県内の高校や県内外の大学で、20回にわたり開催し、若者の県内定着を図っていきます。



高校生からの質問に答える、ねづ農場の根津夫妻

富士の麓に完成「富士ウッドストリート」**8**

月、富士吉田市にある富士北麓公園内に屋内練習走路が完成しました。この施設は、2020東京オリンピックパラリンピックやラグビーワールドカップ2019の事前合宿などの誘致や県民のスポーツ振興に向けて整備したものです。施設の愛称は、全国から応募があった5千件を超える候補の中から、壁や天井に県産材を使用した施設の特徴がイメージできる「富士ウッドストリート」に決定しました。



新たに完成した施設の前でテープカットをする後藤知事ら

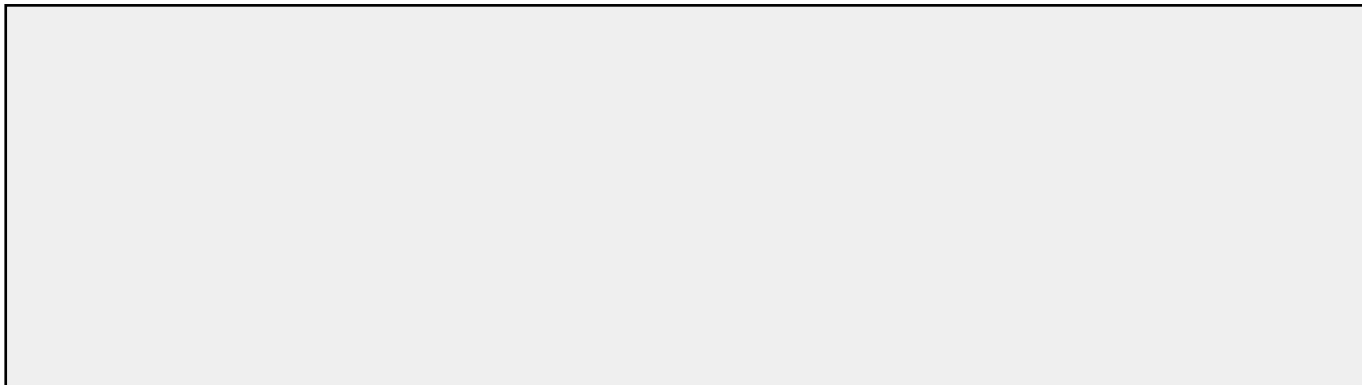
オープン当日は、同公園で2020東京オリンピックの事前合宿を行うことが決まっている日本代表男子陸上短距離チームの選手らが、地元ジュニア選手たちと一緒に走り初めを行いました。施設には130mの直線走路5レーンのほか、走り幅跳び、三段跳び、棒高跳びの練習設備も備えています。

今後、この屋内練習走路が、国内トップレベルの合宿地のシンボルになるとともに、県民の皆さんのスポーツ振興の場となることが期待されます。



バトンリレーを行うジュニア選手と日本代表男子陸上短距離チームのメンバー

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



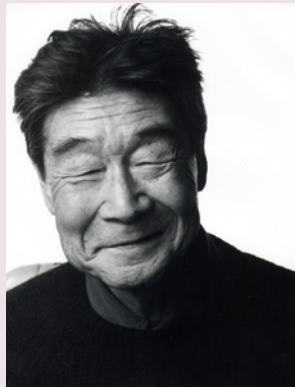
県立文学館

甲府市貢川1-5-35
TEL 055-235-8080 FAX 055-226-9032

企画展 歿後30年 草野心平展 ケルルン クックの詩人、富士をうたう。

カエルと富士山をうたった詩人として知られる草野心平。詩「春のうた」は小学校教科書に採用され、カエルの鳴き声を表した「ケルルン クック」のフレーズは、多くの人々に親しまれています。心平を魅了し、創作の重要なテーマの一つとなったのが富士山です。富士山を数々の詩にうたい、書や絵画でもダイナミックに表現しました。

本展では、詩の原稿、書、絵画、写真など約250点の資料を通じて、今年、歿後30年を迎える草野心平の作品の世界と生涯を紹介します。



草野心平(1903~1988)
(撮影 小林正昭)
(写真提供 いわき市立草野心平記念文学館)



草野心平画「空海富士」油彩
1968(昭和43)年(個人蔵)

開催期間／～11月25日(日)

観覧料／一般600円 大学生400円

※各種割引などあり。詳しくはお問い合わせください。

県立考古博物館

甲府市下曾根町923
TEL 055-266-3881
FAX 055-266-3882

秋季企画展

うずまきみずのかたち

～水煙文土器の世界～

水煙文土器は、山梨を代表する縄文土器の一つで、渦巻く水煙を思わせる文様を特徴としています。

本展では、躍動感と高い芸術性を持つ水煙文土器を一堂に集め、山梨が誇る縄文の美をご覧ください。



水煙文土器
安道寺遺跡(甲州市)出土
(山梨県立考古博物館蔵)

開催期間／10月6日(土)～11月25日(日)

観覧料／無料

富士山世界遺産センター

富士河口湖町船津6663-1
TEL 0555-72-2314
FAX 0555-72-2337

世界遺産富士山講座

忍野村の富士参詣路を歩く【野外講座】

世界遺産富士山の歴史や文化などを調査・研究し、その成果を新たな富士山の魅力として紹介しています。

今回は、野外講座として、元山梨県埋蔵文化財センター所長・新津健さんの案内で、富士信仰に関わる忍野村の旧跡を巡ります。



笹見原遺跡(忍野村)から富士山を望む

開催日時／10月20日(土) 午後1時30分～4時
参加料／無料

県立科学館

甲府市愛宕町358-1
TEL 055-254-8151
FAX 055-240-0168

青少年のための科学の祭典 2018山梨大会

毎年恒例の科学のお祭りです。中学校、高校、大学、企業などのボランティアによるさまざまな科学ブースが出展し、工作や科学体験を通じて科学の面白さに触れることができます。ご家族そろってお楽しみください。



開催日時／11月17日(土)、18日(日) 午前9時30分～午後4時

参加料／入館料のみ

※土曜日は、高校生以下入館無料

富士山科学研究所

富士吉田市上吉田字剣丸尾5597-1
TEL 0555-72-6206
FAX 0555-72-6183

もりのおはなしかい

幼児から小学校低学年の子どもたちに、絵本を通して自然に親しんでもらいます。「おはなしかい」の30分前には、おりがみ教室も開催します。

また、12月16日(日)には、「もりのクリスマスかい」を開催します。



森の中での読み聞かせ

開催日時／10月21日(日) 午前10時30分～午後2時～
参加料／無料

県立美術館

甲府市貢川1-4-27
TEL 055-228-3322 FAX 055-228-3324

自然と共にある人の営みを生涯描き続けた画家ジャン＝フランソワ・ミレー、そして彼と共に活躍したバルビゾン派の画家たちの作品を収集・紹介してきた山梨県立美術館。開館40周年を記念し、新たに収蔵したミレー作品《角笛を吹く牛飼い》の展示を始めるとともに、バルビゾン派の画家シャルル＝フランソワ・ドービニーの国内初となる回顧展を開催します。身近な自然と肉薄することで生み出された2人の画家の作品の魅力をお楽しみください。

コレクション展A ミレー館 秋季

9月11日から公開した《角笛を吹く牛飼い》は、人物表現に主眼を置いていたミレーが、風景表現に重点を置き始め、新たな画風を展開していく転換期となる1850年代半ばに描かれたものと考えられています。一日の終わりの静かな時間に、角笛の音が響き、ゆったりと帰路につく牛たち。夕暮れ時の大気が見せる微妙な表情が、繊細で美しい色彩で描き出されています。暗く、重い印象を持たれることが多いミレーのイメージを払拭するような作品です。

特別展

シャルル＝フランソワ・ドービニー展

印象派の先駆として知られ、モネやゴッホといった後世の画家たちに高く評価されたドービニーの画業を紹介します。ドービニーの作品は、大胆な筆遣いを用いながらも、あたかも自然が目の前に広がるかのような表現が特長です。ダイナミックで迫力ある作品をぜひご鑑賞ください。

開催期間／コレクション展A ミレー館 秋季
～12月2日(日) ※その後も展示予定
特別展 シャール＝フランソワ・ドービニー展
10月20日(土)～12月16日(日)
観覧料／コレクション展+特別展
一般1,260円 大学生590円
※各種割引などあり。詳しくはお問い合わせください。



ジャン＝フランソワ・ミレー《角笛を吹く牛飼い》
制作年不詳(山梨県立美術館蔵)



シャルル＝フランソワ・ドービニー《オプトゥヴォスの水門》
1856年(国内個人蔵)

県立博物館

笛吹市御坂町成田1501-1
TEL 055-261-2631 FAX 055-261-2632

企画展

文字が語る 古代甲斐国

近年、各地の遺跡で発掘されるさまざまな資料によって、日本古代史の新たな研究成果が相次いで発表されています。特に墨書土器や木簡などの出土文字資料は、古代の地域史研究に不可欠なものとなっています。

本展では、山梨の古代を物語る資料の中から、墨書・刻書土器や木簡、金石文や文献史料などの「文字」に着目し、新たに明らかになってきた古代甲斐国の姿や、他の地域との関わりなどを紹介します。

開催期間／10月13日(土)～12月3日(月)
観覧料／一般1,000円 大学生500円
※各種割引などあり。詳しくはお問い合わせください。



和歌刻書土器
ケチ遺跡(甲州市)出土(甲州市教育委員会蔵)



国宝 山梨郡貢進物(胡桃子)付札木簡
平城宮跡(奈良県)出土(奈良文化財研究所蔵)

ふれあい 読者プレゼント

甲州地どり 地酒粕味噌漬 ワインもろみ漬セット

(「甲州地どり生産組合」提供)

抽選で**5名**の方に!



「やまなし美味しい甲斐」については、ホームページをご覧ください。

美味しい甲斐

検索



アンケート

- 問1:今号の中で最も関心を持った内容は?
問2:日ごろから「自助」として心掛けている防災対策は?
※頂いたご意見の一部は、冬号で紹介させていただきます。

応募方法

アンケートの回答と、次の①～⑤をご記入の上、はがき、電子メール、ファクスのいずれかの方法でご応募ください。

- ①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢・性別 ⑤電話番号

応募先

山梨県広聴広報課「ふれあい読者プレゼント」係
はがき:〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
電子メール:koucho@pref.yamanashi.lg.jp
(件名に「ふれあいプレゼント」と入力)

ファクス:055-223-1525

締め切り

10月31日(水) (当日消印有効)
商品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。
個人情報、商品の発送のみに使用します。

山梨県の広報誌「ふれあい」が読める無料アプリ



「マチイロ」のアプリをダウンロード(無料)すると、スマートフォンで「ふれあい」が読めます。

結果発表! 山梨で「働く・暮らす」魅力とは?

夏号のアンケートに寄せられたご意見の一部を紹介します。

暮らす環境

都心から2時間弱なのに、ゆったりとした時間が流れている(甲府市・40代女性)。山に囲まれているので、災害が少ない(北杜市・60代男性)。豊かな自然の中で暮らせる(上野原市・60代女性)。四季の移ろいを感じられる(早川町・50代女性)。



働く・子育て環境

子どもを育てる環境に恵まれ、働く場所も職種もさまざまある(笛吹市・50代男性)。近所付き合いがあるので、子育てしやすい(甲府市・30代女性)。いろいろな職種、企業も大小あるので働きやすい(山梨市・20代女性)。仕事をする環境と自然環境が一体となっている(富士川町・60代女性)。



ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。